

株主メモ

事業年度 毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会 毎年5月開催
基準日 定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日
中間配当金 毎8月20日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法 電子公告により行ないます。
http://www.palemo.co.jp/
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

以前は、旧株式会社鈴丹の株主様の特別口座に関するご照会先は、三菱UFJ
信託銀行株式会社でしたが、三井住友信託銀行株式会社になりました。

株主名簿管理人 名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031

株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

上場株式等の配当等に係る10% (所得税7%、住民税3%) 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率(所得税7%、住民税3%)は廃止され、本来の税率である20%(所得税15%、住民税5%)となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

~ Doing it ~

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



第33期 報告書
[2017.2.21.~2018.2.20.]



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第33期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第33期におけるわが国経済は、海外における不安定な政治情勢や地政学リスクの影響などが懸念される一方で、国内においては企業収益の改善や、雇用・所得環境の改善に加え、個人消費の持ち直しも見られるなど、景気は緩やかな回復基調となりました。

当社が属する専門店業界は、少子高齢化、人口減少社会の進行により、市場規模の拡大に期待が持たないだけでなく、慢性的な人手不足による人件費の高騰などにより店舗運営維持コストが上昇するなど、厳しい環境で推移しました。

こうした中において、当社は目標である増益に向け基幹事業における利益体質の定着化と、次期以降の増収基盤を構築すべくアパレル及び雑貨事業の新規出店による収益拡大にも努めてまいりました。このような取り組みから、既存店売上高前年同期比が堅調に推移したことに加え、不採算店舗の閉店が大幅に減少したことにより、営業利益については公表数値にわずかながら届きませんでしたが、経常利益並びに親会社株主に

事業構造改革の完遂と新時代への挑戦

当社は業績が低迷した第30期を節目に、再生を目的とした中期経営計画を策定し、「事業構造改革」に取り組んでまいりました。この3年間の前半は不採算店舗の見直しと基幹事業の収益改善について最優先に取り組み、後半からは次代の成長に向けた新規ブランドの育成及び出店拡大にも注力してまいりました。その過程において、今後更に加速する経済環境の変化への対応、経営資源の最適な配分と効率的な経営管理を行なうべく持株会社体制へと移行しました。そして第34期においては、「事業構造改革」の最終目標である増収増益を目指し、新たな挑戦に向けたグループ経営の基盤構築に努めてまいります。

代表取締役社長 **吉田 馨**

指針 **正しい経営** **ローコスト経営**
安定成長 **人財経営**

帰属する当期純利益については、公表数値を上回る結果となりました。

「事業構造改革」の最終年度である第34期におきましては、基幹事業における収益の拡大と、新規出店の拡大及びEC事業への対応強化にも注力し、引き続きローコスト経営による営業費の削減に努め、目標である増収増益を目指してまいります。そして「事業構造改革」の取り組みと並行して、2019年2月期を初年度とする新中期経営計画を策定し、既存事業の安定成長と新たな挑戦に向けた諸施策にも着手してまいります。

また、当社は持株会社体制に移行した今後においても、より一層企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など、企業の質的向上にも努めてまいります。

なお、期末配当については、予定通り1株につき3円(年間3円)とさせて頂きました。引き続き業績の向上に努め、経営基盤の強化に向けた内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主の皆様へ還元できるよう増配を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q 1 当期の業績についてお聞かせください

当期の業績は、売上高232億62百万円、営業利益7億41百万円、経常利益7億68百万円、親会社株主に帰属する当期純利益9億49百万円となりました。

当期のアパレル事業におきましては、天候不順により夏の主力アイテムである水着、浴衣の販売が苦戦したほか、年明け以降の記録的な寒波により春物商品の立ち上がりも遅れるなど苦戦を強いられました。こうした中において、適正在庫コントロールによる鮮度ある商品投入や売場づくりを推進したことにより、既存店売上高前年同期比は堅調な推移で進捗しました。

雑貨事業においては、バッグ業態が市場全体で低迷しており当社も大きく影響を受けた一方で、ライフスタイル提案商品のニーズの高まりから出店を強化した300円均一業態が好調であったことや、バラエティ雑貨業態において商品鮮度の改善が進んだほか、ヒット玩具の出現もあり雑貨事業全体では堅調な推移となりました。このように天候不順や消費動向の変化への対応等、一部のブランドにおいて課題が残りましたが、全社の既存店売上高前年同期比は100.0%と前年の水準を維持することができました。

利益面におきましては、当期が連結決算に移行している為、連結決算前の(株)パレモ単体での比較となりますが、売上総利益率はほぼ前年並みの推移となる一方で、引き続き不採算店舗の閉店による経費削減効果もあり、営業利益、経常利益ともに前期を上回る結果となりました。

店舗の出退店におきましては、新規出店は前期を大きく上回る27店舗となり、商業施設との定期賃貸借契約の満了及び不採算店舗の閉店を合わせ53店舗の閉店を実施した結果、当期末現在の店舗数は469店舗となりました。

当社は、この3年間で会社の再生を目的とした「事業構造改革」に取り組み、基幹事業の収益改善において一定の成果を得られたものと考えております。今後につきましては、新たに持株会社体制となった当社グループ全体の成長を目的とした新中期経営計画を策定し、永続的な安定成長の基盤を構築してまいります。

Q 2 新中期経営計画の概要と、34期以降の施策についてお聞かせください

新中期経営計画の初年度である34期については、「事業構造改革」の最終目標である増収増益を目指すとともに、持株会社体制下における新たな挑戦の年と位置づけております。

このたび策定した新中期経営計画につきましては、当期まで続けておりました減収のベクトルに終止符を打ち、再び成長軌道を描くために、「基幹事業の競争力向上」、「成長エンジンの創出」、「安定成長に向けた人財戦略」の3つの基本テーマを掲げております。

「基幹事業の競争力向上」については、この3年間の取り組みが奏功し、アパレル、雑貨の両事業で在庫低減が進み、商品鮮度も大幅に改善されました。今後はMD(マーチャндаイジング)の精度を更に高め、店舗毎の競合環境や来店客層に応じたきめ細かい商品供給と販売サービスに努め、同業他社に対する競争力の強化と更なる収益の拡大を図ってまいります。

「成長エンジンの創出」については、アパレル事業の主力ブランド「Ludic Park(ルディックパーク)」、雑貨事業の好調ブランド「illusie300(イルーシーサンマルマル)」を軸に出店拡大を図り、成長を見込める店舗への改装及びブランド転換による閉店抑制にも努め、既存の小売事業のみで増収可能な体制を構築してまいります。また、更なる成長が期待できるEC事業については、インフラの整備、販促強化、人財補強等により収益の拡大に向け積極的な投資をしてまいります。

「安定成長に向けた人財戦略」については、これまで見送っていた新卒採用の再開に加え、中途採用についても随時行なうほか、事業会社を中心に若手幹部の積極登用を推進し、次世代リーダーの育成にも努めてまいります。また、常態化する店舗の欠員対策につきましても、当期に引き続き重要な課題と認識し、全社をあげてプロジェクトの中で改善策を検討、実行してまいります。

以上、34期におきましては、「事業構造改革」を最終目標である増収増益で完遂させるとともに、新中期経営計画の初年度として掲げた基本テーマを着実に推進することで、今後予測される厳しい経営環境の中でも成長し続けることができる経営基盤を構築してまいります。

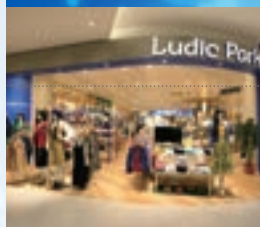
アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

アパレル事業におきましては、適正在庫コントロールが定着したことにより、一時的な気候の影響を受けながらも期中での修正を可能とし、安定的な推移で進捗しました。

当期においては、「Lilou de chouchou(リルデシュシュ)」4店舗、「Ludic Park(ルディックパーク)」12店舗、「Re-J(リジェイ)」1店舗を出店しております。34期以降の収益拡大と主力ブランド化への成長を目指し、17店舗の出店の内、16店舗を新規ブランドとしました。今後も新規ブランドの軌道化と更なる認知度向上に努めるとともに、既存店舗におけるブランド転換を含めた改装も実施してまいります。

ルディックパーク



Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

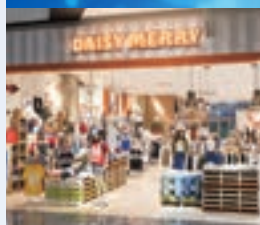
リルデシュシュ



Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

デイジーメリー



DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたいつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

ギャルフィット



GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン



suzutan

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リシェリエ



Recherie

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

リジェイ・スプル



Re-J

「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE

「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、基幹事業の「Siebelet(シーベレット)」を中心に在庫の適正化が進み、商品鮮度の改善が図られたことから業績も回復基調となりました。

当期においては、「illusie300(イルーシーサンマルマル)」7店舗、「Siebelet(シーベレット)」2店舗、「INCENSE(インセ

シーベレット



Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファッション雑貨と生活雑貨を提案します。

インセンス



INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

ンス)」1店舗を出店しております。なかでも300円均一業態の「illusie300」においては、MDの精度向上が進み収益の改善が図られたことに加え、この一年で顧客からの支持も高まったことから10店舗の出店の内、7店舗の出店となりました。

イルーシー300



illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ



木糸土

木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルコーディネート、ライフスタイルを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー店舗	16	24	1	267
ギャルフィット・スズタン他	0	24	△3	199
ルディックパーク、9スクエア	12	0	2	17
リルデシュシュ	4	0	1	9
デイジーメリー	0	0	0	4
リシェリエ、ドスチ	0	0	1	38
ラージサイズ店舗	1	1	△1	44
アパレル事業合計	17	25	0	311

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
シーベレット	2	15	0	60
イルーシー300	7	5	0	39
インセンス	1	1	0	31
木糸土・ハレノヒ	0	5	0	14
雑貨事業合計	10	26	0	144
複合店 ^(※)	0	2	0	14
全社合計	27	53	0	469

(※) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

※注:当社は、当連結会計年度より連結計算書類を作成しております。
 なお、前事業年度の数値は、ご参考として㈱パレモの数値を記載しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

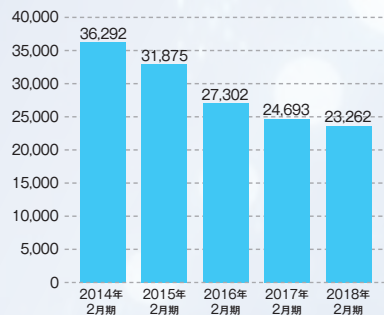
	当連結会計年度 (平成30年2月20日現在)	前事業年度 (平成29年2月20日現在)
■資産の部		
流動資産	5,265	5,840
固定資産	5,116	5,143
有形固定資産	833	611
無形固定資産	13	6
投資その他の資産	4,269	4,525
資産合計	10,381	10,984
■負債の部		
流動負債	5,303	6,274
固定負債	2,051	2,632
負債合計	7,355	8,907
■純資産の部		
株主資本	3,025	2,076
資本金	100	1,229
資本剰余金	1,979	1,104
利益剰余金	949	△254
自己株式	△2	△2
純資産合計	3,025	2,076
負債及び純資産合計	10,381	10,984

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

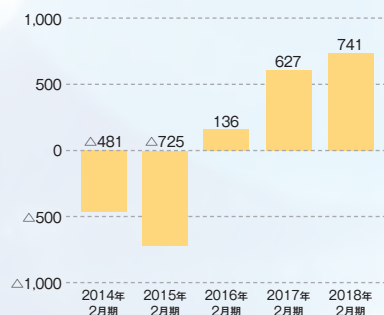
	当連結会計年度 [平成29年2月21日から 平成30年2月20日まで]	前事業年度 [平成28年2月21日から 平成29年2月20日まで]
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	221	1,335
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△132	541
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△635	299
現金及び現金同等物の増減額	△546	2,176
現金及び現金同等物の期首残高	2,768	592
現金及び現金同等物の期末残高	2,222	2,768

売上高 (百万円)

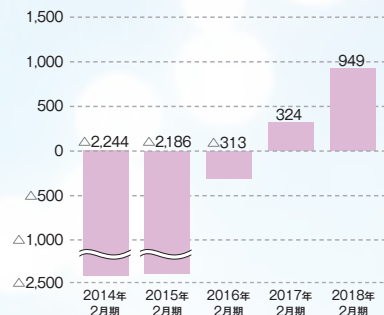


注:2017年2月期までは(株)パレモの数値を記載しております。

営業利益(損失)(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(損失)(百万円)



連結損益計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 [平成29年2月21日から 平成30年2月20日まで]	前事業年度 [平成28年2月21日から 平成29年2月20日まで]
① 売上高	23,262	24,693
売上原価	10,361	10,971
売上総利益	12,900	13,721
販売費及び一般管理費	12,159	13,094
② 営業利益	741	627
営業外収益	39	31
営業外費用	12	12
経常利益	768	645
特別利益	161	62
特別損失	52	179
税金等調整前当期純利益	877	528
法人税、住民税及び事業税	93	210
法人税等調整額	△165	△6
③ 親会社株主に帰属する当期純利益	949	324

POINT

- 売上高は232億62百万円となりました。これは主に、定期賃貸借契約の満了と不採算店舗閉店による店舗数減少によるものですが、既存店売上高前年同期比は100.0%と堅調に推移し、公表数値を上回る結果となりました。
- 営業利益は7億41百万円となりました。これは主に、不採算店舗閉店に伴う赤字額の減少及び営業費の低減に努めた結果によるものです。当社は、平成30年2月期第3四半期より連結決算に移行しております。前事業年度については、連結決算前の㈱パレモ単体の数値となりますが、参考として前事業年度6億27百万円に対して1億13百万円の増加となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は9億49百万円となりました。これは主に、当期の特殊要因として、退職年金制度変更に伴う特別利益1億59百万円及び繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額△1億65百万円によるもので、公表数値を上回る結果となりました。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、2億21百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益8億77百万円の計上及び減価償却費1億41百万円による収入増と、退職給付制度改定による引当金2億50百万円の取崩しによるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、1億32百万円の支出となりました。これは主に、新設・既存店舗の改装など有形固定資産の取得による支出4億円と、差入保証金の回収5億29百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、6億35百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済によるものです。

会社概要 (2018年2月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社

設立 1984年11月22日

資本金 1億円

本社所在地 〒492-8680

愛知県稲沢市天池五反田町1番地

従業員数 2,508名(グループ含む)

(ナショナル社員156名、エリア社員他2,352名)

事業内容 事業子会社の経営管理等

ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2018年5月17日現在)

代表取締役社長 吉田 馨

専務取締役 永井 隆司

取締役 福井 正弘

取締役 竹中 幹雄

取締役 木根 測 明

取締役 永田 昭夫

取締役 赤塚 憲昭

常勤監査役 土田 新一郎

監査役 平岡 繁

監査役 今枝 剛

監査役 川口 直也

注:取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

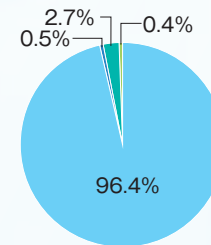
株式情報 (2018年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	6,647名

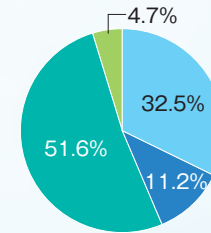
大株主 (2018年2月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合 エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・ツー株式会社	6,040	50.11
個人株主A	598	4.96
株式会社SBI証券	477	3.96
日本証券金融株式会社	360	2.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	200	1.65
パレモ従業員持株会	199	1.65
株式会社三菱東京UFJ銀行	130	1.07
ゴールドマンサックスインターナショナル	129	1.07
MSIP CLIENT SECURITIES	120	0.99
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジェイビーアルディ アイエスジー エアイーエイシー	86	0.72

株主構成 (2018年2月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	6,407名	96.4%
証券会社・金融機関	32名	0.5%
その他国内法人	180名	2.7%
外国法人・個人	28名	0.4%
合計	6,647名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	3,921,520株	32.5%
証券会社・金融機関	1,354,179株	11.2%
その他国内法人	6,213,683株	51.6%
外国法人・個人	562,002株	4.7%
合計	12,051,384株	100.0%